

平成30年(2018年)

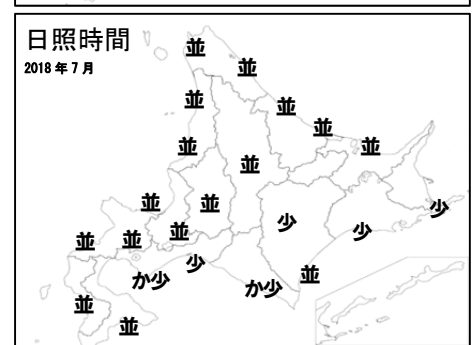
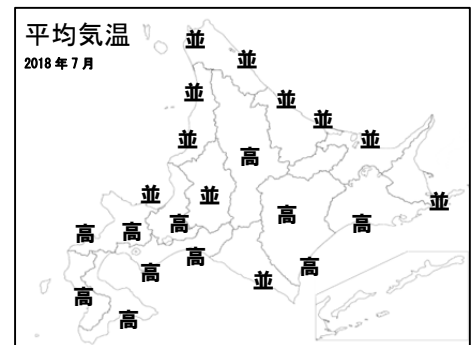
札幌管区気象台 気象防災部
地球環境・海洋課
(2018年8月1日)

北海道地方 7月の天候

気候表 (データは速報値であり、後日変更される場合があります)

官署名	本年			平年差・平年比		
	気温 ℃	降水量 mm	日照時間 h	気温 ℃	降水量 %	日照時間 %
稚内	16.9	121.5	158.3	+0.1	134	108
北見枝幸	16.4	140.0	131.3	+0.3	127	103
羽幌	19.4	200.0	160.4	+0.2	177	93
雄武	16.7	120.5	148.6	+0.7	111	110
留萌	19.5	318.5	172.3	+0.3	328	102
旭川	21.3	348.0	162.4	+1.1	320	100
網走	17.3	166.0	173.2	+0.2	190	103
小樽	20.2	227.5	171.7	+0.4	287	105
札幌	21.4	155.5	177.4	+0.9	192	108
岩見沢	20.4	208.0	160.9	+0.7	203	104
帯広	19.1	180.0	90.1	+0.8	169	77
釧路	16.5	213.0	77.7	+1.2	167	72
根室	14.6	252.0	94.3	+0.4	207	84
寿都	20.0	163.5	144.4	+1.1	185	93
室蘭	18.9	175.5	80.1	+1.0	106	63
苫小牧	18.2	198.5	74.3	+0.6	118	76
浦河	17.6	195.0	59.1	+0.4	134	54
江差	21.2	215.5	130.2	+1.1	165	92
函館	21.2	160.0	120.3	+1.5	123	89
倶知安	20.6	213.0	141.6	+1.4	222	96
紋別	16.8	150.0	157.1	+0.2	150	107
広尾	17.2	193.0	88.4	+1.3	112	85

階級分布図



注)「)」付きの値は欠測を含む。「]」付きの値は一定の割合以上の欠測を含む。

(気温は平年差(℃)、降水量・日照時間は比(%)を示す)

	気温	階級	降水量	階級	日照時間	階級
北海道22地点平均	+0.7	並	179	か多	92	並
日本海側10地点平均	+0.7	並	221	か多	100	並
ホーツク海側4地点平均	+0.4	並	145	多	106	並
太平洋側8地点平均	+0.9	高	142	多	75	か少

月統計値の記録 (第3位まで)

(詳細は、最終ページの表を参照してください。)

月降水量 (多い) 第2位 小樽 根室
 第3位 留萌 旭川 倶知安
月間日照時間 (少ない) 第1位 浦河

階級は、概ね「高(多)」、「並」、「低(少)」の3段階に分けています。
各階級の幅は、平年値の作成期間(1981年~2010年の30年間)における各階級の出現率が1:1:1となるように決めてあります。
また、平年値作成期間内の上位、下位10%の範囲に入る場合は「か高(多)」、「か低(少)」(か→かなり)で表します。

— 『並温・多雨・並照』 月のはじめは前線が停滞して記録的な大雨、下旬は猛暑日も —

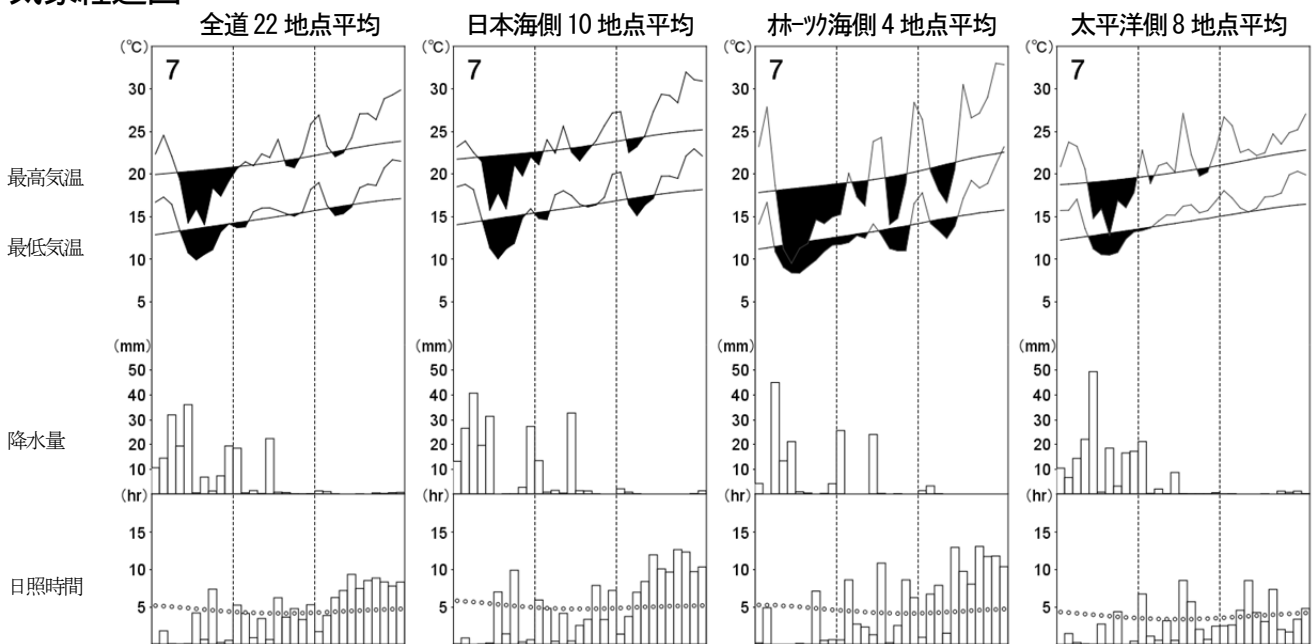
この期間の天気は、月の前半は前線や湿った気流、気圧の谷などの影響で曇りや雨の日が多く、特に1～5日は前線の停滞や、台風から変わった低気圧の影響により広い範囲で雨が降り、大雨となった所もあった。その後は高気圧の張り出しの中となって晴れた日が多く、29～31日には暖かい空気が流れ込んで猛暑日となった所や、日最高气温の記録を更新した所もあった。気温は上旬は平年より低かったが、下旬は高く、月平均気温は平年並だった。降水量は上旬は平年よりかなり多かったが、下旬はかなり少なく、月降水量はかなり多かった。日照時間は上旬は平年よりかなり少なかったが、下旬はかなり多く、月間日照時間は平年並だった。なお、1961年の統計開始以降、上旬の降水量は日本海側と太平洋側及び北海道地方として最も多く、日照時間は太平洋側と北海道地方として最も少なかった。

上旬:1～5日は前線や湿った気流、台風第7号から変わった低気圧などの影響で全道的に雨が降り、大雨となった所もあった。日降水量は2日に小樽で59.0mm、3日に旭川市瑞穂で137.5mm、4日に木古内で88.5mm、5日に長万部で113.0mmなど。6日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所があったが、湿った気流の影響によりオホーツク海側や太平洋側西部では雨が降った。7日は前線を伴った低気圧の影響で太平洋側を中心に雨が降った。日降水量はえりも町目黒で59.5mmなど。8日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、前線の影響で太平洋側を中心に雨が降った。9～10日は前線や湿った気流の影響により広い範囲で雨が降った。日降水量は10日に八雲町熊石で94.5mmなど。

中旬:11日は前線や低気圧の影響ではじめ全道的に雨が降ったが、その後は高気圧の張り出しの中となって晴れた。日降水量は根室市弥栄町で61.5mmなど。12日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、湿った気流や気圧の谷の影響で朝晩は雨の降った所もあった。13日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所が多かった。14日は気圧の谷の影響で朝晩を中心に雨の降った所があったが、日中は晴れた所もあった。15日は低気圧を含む気圧の谷の影響で全道的に雨が降った。日降水量は浦臼で72.5mmなど。16日は低気圧を含む気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に晴れた所が多かった。17日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、渡島・檜山地方では気圧の谷の影響で雨が降った。18日ははじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。19日は高気圧の張り出しの中となってオホーツク海側を中心に晴れたが、湿った気流の影響で雨の降った所もあった。20日は高気圧の張り出しの中となって晴れた所が多かったが、気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所もあった。

下旬:21日は気圧の谷の影響で全道的に曇って雨の降った所があった。22日は気圧の谷の影響で日本海側北部とオホーツク海側を中心に雨が降ったが、次第に高気圧の張り出しの中となって晴れた所もあった。23日は、はじめ気圧の谷の影響で雨の降った所があったが、次第に高気圧に覆われて晴れた所が多かった。24～27日は高気圧の張り出しの中となって広い範囲で晴れた。28～31日は高気圧の張り出しの中となって日本海側やオホーツク海側を中心に晴れたが、太平洋側などでは気圧の谷や湿った気流の影響で雨の降った所があった。

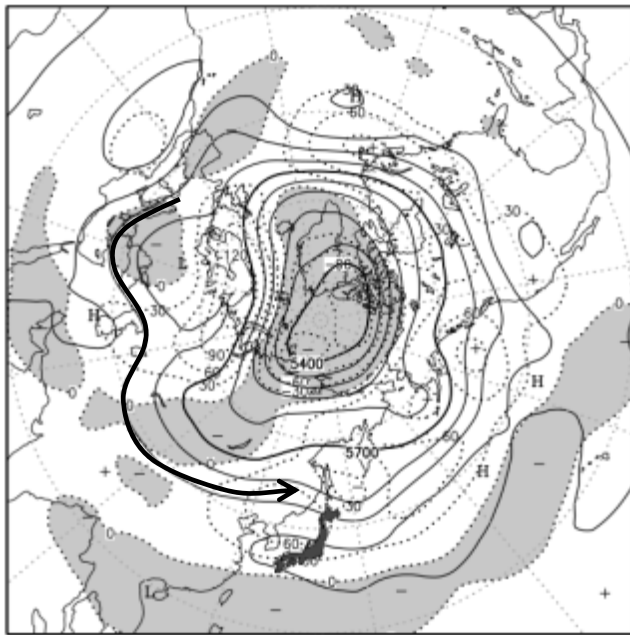
気象経過図



旬別気候表 (気温は平年差(℃)、降水量と日照時間は平年比(%)を示す)

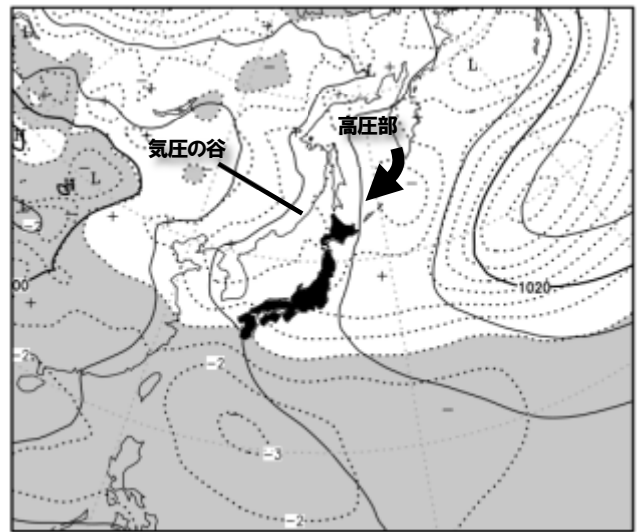
	北海道全域			日本海側			オホーツク海側			太平洋側		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
気温	-0.8 低	+0.6 並	+2.3 高	-0.9 低	+0.7 高	+2.2 高	-1.7 低	-0.4 並	+3.0 高	-0.3 並	+0.9 並	+2.0 高
降水	485 か多	118 並	10 か少	621 か多	156 多	10 少	418 か多	133 多	12 少	349 か多	63 並	8 か少
日照	30 か少	93 並	153 か多	37 か少	85 並	175 か多	25 か少	104 並	195 か多	24 か少	97 並	104 並

7月の大気の流れ（北半球の平均天気図の特徴）



7月の500hPa天気図

実線：等高度線（m）、点線：高度の平年偏差（m）
 陰影部は、平年より高度の低い負偏差の領域を示す。この領域では平年より気温が低い傾向がある。
 日本の上空では、風は等高度線に沿って西から東に吹いている。等高度線が南北に波打っている状態は偏西風が蛇行していることを、等高度線の間隔が狭い所では偏西風が強いことを示す。



7月の地上天気図

実線：等圧線（hPa）、点線：気圧の平年偏差（hPa）
 陰影部は、平年より気圧が低いことを示す。この領域では、平年より気圧の谷や低気圧の影響を受けやすい。

・500hPa（上空約5500m）天気図

偏西風はユーラシア大陸から蛇行が連なり、日本付近で北へ蛇行し高度が平年より高く暖かい空気に覆われやすかった。また、千島近海に気圧の谷があり、北海道付近は気圧の谷の影響を受けやすかった。

・地上天気図

北海道付近は気圧の谷となり低気圧や気圧の谷の影響を受けやすかった。また、オホーツク海付近が高気圧部となり、オホーツク海高気圧からの冷たく湿った気流の影響を受けた時期があった。

北海道上空の気温経過

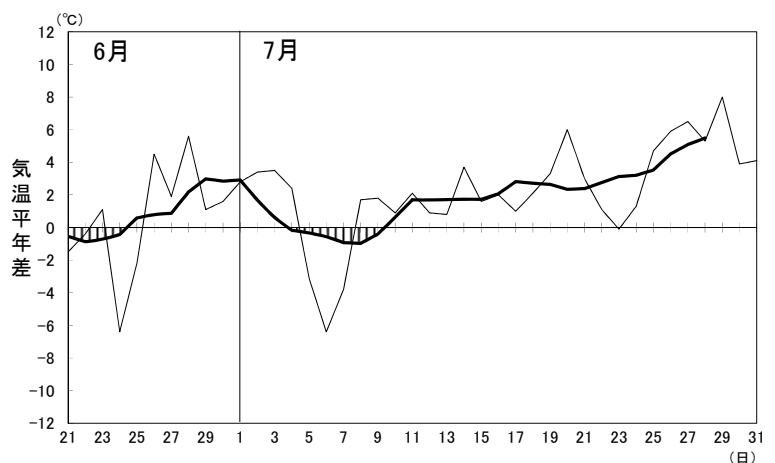
7月の札幌における850hPaの気温平年差

・7日移動平均（太線）

上旬は平年を下回る日が多かったが、その後は平年を上回った。

・日別値（細線）

上旬には平年を大きく下回る日があったが、その後は平年を上回り、大きく上回る日も多かった。



6月下旬から7月の札幌における850hPa(上空約1500m)気温平年差
 (細線：日別、太線：7日移動平均、陰影線：7日移動平均の負偏差)

月統計値の記録の詳細（第3位まで）

期間	要素	順位	地点	本年	平年差(比)	これまでの1位(年)	統計開始年
7月	月降水量 (多い)	第2位	小樽	227.5 mm	287 %	242.6 (1961)	1943
			根室	252.0 mm	207 %	336.5 (2009)	1879
		第3位	留萌	318.5 mm	328 %	366.4 (1953)	1943
			旭川	348.0 mm	320 %	418.0 (1953)	1888
			倶知安	213.0 mm	222 %	322.7 (1961)	1944
	月間日照時間 (少ない)	第1位	浦河	59.1 h	54 %	62.8 (2010)	1927

お問い合わせ先

札幌管区气象台気象防災部 地球環境・海洋課
TEL (011) 611-6174